

**今週の投資成績(2/13~2/17) 【編集】[投資日記]**

今週の損益率は先週末に対して-0.15%の微減となった。また、今月の損益率は+3.95%とやや後退、年初来累計損益率は+4.52%となった。

また、日経平均を始値ベースで見ると、先週末から今日までで-2.70%となっており、とりあえずINDEXには勝つことができた。しかし、現在のシステム対象銘柄は終値ベースで急騰しており、株価上昇の割には利益が出ないという、イライラする週だった。

今週は外国人投資家の寄付きでの売越しが続き、裏デイトレにとっては不利な展開となった。また、場中の値動きが大きく、大きな収益チャンスも垣間見られたが、裏デイトレーダーとしては傍観しているしかなかった。

恐らく通常のデイトレーダーにとっては、今週は大きなチャンスであったと共に、過大なリスクを負うこともあったのではないかと思う。押し寄せるビッグウェーブを上手く乗りこなせた人は、大きな利益を手にする事が出来ただろうが、あえなく溺れかかった人もまた多かったのではないだろうか？

裏デイトレでは、市場の寄付きと大引けというタイミングでのみの売買に徹しており、場中の波に乗ることはない。そのため、最近の大荒れ相場では、余計なリスクを背負い込むことがない代わりに、ほぼ確実と思える収益チャンスに乗ることもない。まあ、ある意味つまらないトレード手法である。

ただし、システムのオプションである残業(寄付きで手仕舞わず場中で返済)や早出(大引けで玉を建てず場中で建てる)を行えば波に乗ることも出来るが、溺れてしまう危険性もまた高いことに注意する必要がある。

そもそも裏デイトレは、ある程度長期に渡って平均的に収益を上げていく手法である。短期的に見れば、利益と損失が交互に現れる資産カーブが観察されるが、長期的に見ると滑らかな右肩上がりカーブに見えることが多い。

通常、株価が上値を切り上げていく際には、大陽線が連続して現れるパターンが多い。このような時には、裏デイトレではなかなか収益を上げることが出来ない。

しかし、その後値が跳ねて短期移動平均線からの乖離幅が拡大してくると、一旦調整局面に入ることになる。そのような状態になると、比較的陰線の出現頻度が高まるが、株価水準はあまり下がらない展開が続く場合が多い。

上昇相場下においてはこの局面に入って初めて、裏デイトレの優位性が発揮されることになる。そこに至る過程で生じた機会損失は、この調整局面で挽回でき、資産カーブの上値を切り上げていくことになる。

そのため、裏デイトレの資産カーブは、実際の株価の上昇に対してやや遅れて上昇するパターンが多い。

現在のシステムに関して言えば、今週は今一つの展開だったが、来週以降に大いに期待したい。

---

2006-02-17 13:17 nice!(0) コメント(0) トラックバック(0)  
共通テーマ:株・投資